

いつまでも 心に残る 思い出を

第3回ふれあいの船 北海道5日間

市内の小学校6年生を対象とした「ふれあいの船」事業が、A班（7/22～7/26）・B班（7/30～8/3）の2班に分けて実施されました。

今年は、児童401人と引率者51人が、北海道・富良野方面へ5日間（船中2泊）の旅へ。美しい大自然の中で、みんなで協力し合いながら、アイスクリーム作りやサイクリングなどにチャレンジしました。

出発式のあいさつ（B班）

大宮西小学校 西野 颯希



ぼくたちにとって、小学校最後の夏休み。この夏、最高の思い出を作りこれから北海道へ出発します。

ぼくは、このふれあいの船への参加を決めたとき、最初は、少し不安がありました。他校の人達と「仲良くできるか」「船よいはしないか」「責任ある行動をとれるか」ということです。



しかし、児童研修会に出て大きな船のことを知り、日程表をながめて体験学習のことを想像しているうちに、不安よりも楽しみが大きくなってきました。

こんなにたくさんの友達と行く、この「ふれあいの船」では、色々なことがあると思います。ご指導いただく引率・指導者方の教えを守り、友達と協力し合って生活してきます。そして、スローガンにある「いつまでも心に残る思い出を」たくさん作ります。今日より心も体もたくましくなって帰ってきたいと思います。

この「ふれあいの船」は、たくさんの人のおかげで出発できます。ぼくたちを送り出してくれる家族にも感謝しています。本当にありがとうございます。

では、「行ってきます。」



解散式のあいさつ（A班）

大賀小学校 河野 仁美



ふれあいの船の思い出を発表します。

1つ目は、他の学校の人と仲良くなれたことです。最初は他の学校の人とあまり話せませんでした。しかし、食事の時や船中での「ふれあい活動」の時にだんだん話せるようになりました。友達がたくさんできたので、うれしかったです。

2つ目は、サイクリングです。サイクリングをしている時、雄大な景色を見ながら、自転車を乗りました。涼しい風の中、山を見ながら自転車を乗るのが楽しかったです。

3つ目は、アイスクリーム作りです。1回目は、固まらなくて失敗したけど、2回目は、おいしく作れてうれしかったです。

この他にも「ふれあいの船」では、時間を守ることや自分の健康は自分で守ることを学びました。

ふれあいの船で学んだことを、残りの小学校生活、そして来年の中学校生活に生かして、がんばっていきたいと思います。

小学校最後の夏休みに、最高の思い出ができて良かったです。

